

## 試験は厳しい日本語教師

日本の非営利組織（NPO）「日本フィリピンボランティア協会」（本部・東京）の協力で02年に創立されたミンダナオ国際大学（ダバオ市）を卒業したサバルダン・マイケルさん（29）＝写真中央＝が、卒業生初の専任日本語教師として、同大学で教鞭を執っている。マイケルさんはかつて、ダバオ市内のホテルでウェーターとして働いていた。「大学を出て良い仕事に就きたい」と、日本語と日本文化を学べる同大学に入学。昨年4月の卒業後、「もっと深く学びたい」と大学に残り、後輩を指導する



道を選んだ。

日本政府は、昨年調印した日比経済連携協定（EPA）で、フィリピン人の看護師と介護士の受け入れに合意した。社会福祉学部を持つ同大学の学生の多くは日本で介護士として働くことを夢見る。

普段は優しいが試験の時は厳しすぎる、という学生たちの評判に、マイケルさんは「日本で働いて稼ぐだけで終わるのはもったいない。将来は経験を母国の発展に生かせる人材になってほしい。そのためにはより高度な日本語を学ぶ必要がある」。柔和な表情を引き締めて学生たちに語りかけた。